

ティーチング・ステートメント

所属 工学部都市環境学科
名前 細川和彦
作成日 2024年2月26日

【責任】

- ・工学部都市環境学科に所属し、専門領域である「寒冷地工学」を中心に、初年次教育の「フレッシュマンセミナー」、専門に関連した「環境とエネルギー」、「建設情報Ⅱ」、「都市環境演習Ⅰ」を担当している。また、4年ゼミ生の研究指導、就職支援センター主任としてキャリア指導を行っている。(エビデンス：シラバス)
- ・戦略事業計画の提案者として、「CIM時代に対応した建設技術者育成プログラムの構築」に取り組んでいる。(第2期中期事業計画・戦略事業計画採択事業)
- ・課外活動では、アーチェリー部の顧問を行っている。

【理念】

・学生には大学での学びの中から実社会との結びつきをしっかりと感じてもらい、学ぶことの意義を常に意識し、将来への目標と高い向上心を持って、常に自ら学び続ける姿勢を持ち続けてもらいたい。また、物事を雰囲気や思惑ではなく、論理的に判断できる思考力を養ってもらいたい。卒業後のあらゆる社会情勢の変化に対しても「生き抜く力」を養ってもらえるよう、教育内容および教育環境を整備し、あらゆるステークホルダーにとって納得のいく、信頼される教育サービスを提供することを目指す。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために授業およびゼミにおいて、以下に述べる方針1～方針3に基づき活動している。

- ◆方針1：大学での学びが、実社会とどのように結びつき、活かされているのかを実感してもらうことで、学ぶ意義や学びへの意欲を醸成する。
⇒講義や演習で学んだ内容が、実際の建設現場や都市のどこで必要となるのか、現地視察研修やフィールドワークを通して具体的に考える機会を設ける。
⇒実物を見る、触れる機会を設ける。(講義では、現物やカットサンプル、実験・演習ではフィールドワークや視察、課外では、国内・海外への研修旅行)
⇒第一線で活躍する技術者を招き、講演会を開催する。
- ◆方針2：論理的思考力を育て、思慮深い技術者となるよう指導する。
⇒講義では、穴埋め式資料を用意し、聞く、メモする、考える事に集中できる環境を作る。
⇒実験・演習では、あえて全てをお膳立てせず、実施方法の検討なども含めた段取りを経験させることにより、取り組む対象に対して深い洞察力を鍛える。
- ◆方針3：質の良い学びの環境を提供する。
⇒全道でも先進の取り組みとして、CIM(Construction Information Modeling)技術を教育実践するプログラムを開発中である(2020年度～段階的に導入、2024年度新カリで実装)
⇒就学支援のための講義アーカイブシステムの構築を行い、要支援学生はもとより、全学生にとって有益な講義システムの構築を図る(2021年度教育改革推進費にて実施済)
⇒D棟移転を機に、これまで老朽化した実験室などの学習環境の再整備を行うとともに、新規のプログラムに関連する機器を導入し快適かつ効果的な環境を構築する。(2021年度実施済み：建設情報演習室を設置)

【成果・評価】

- ・授業アンケートにおける学生の授業満足度は適切なレベルである。
- ・教員同士による授業参観において、優れた点、改善点ともに指摘を受けその後の授業改善に反映させている。

- ・卒業研究発表会において、優秀プレゼンテーション賞を獲得した。(2012年度)
- ・CIM カリキュラム開発のため、ドローン操縦技能資格の取得や 3D_CAD 講習を受講し、一部科目や高大連携教育などで早速実践投入し、学生および高校生から好評を得た。

【目標】

- ・最新技術の動向について情報収集を怠らない。(2018年度より継続)
- ・社会に還元できる成果を出せるように研究活動を怠らないことで学生への手本とする。
- ・論理的思考力の醸成を促す課題設定を開発する。(2020年度より継続)
- ・外部資金を活用し、教育環境および挑戦的取り組みの充実を図る。(2024年度～トランス・コスモス財団, DX人材育成プログラム応募)

【更新履歴】

2024. 2. 26 2024年度～カリキュラム更新に向けた TS の更新